

良以也

くまの

良法

の多也

才廿一篇

柳下亭種彦化

一桂高國舞画



~13  
3877  
11





兒雷也豪傑譚

一編

外題由五立國

上

明 ~ 13  
3877  
11

兒雷也豪傑譚 第廿二編 上冊

柳下亭種員作

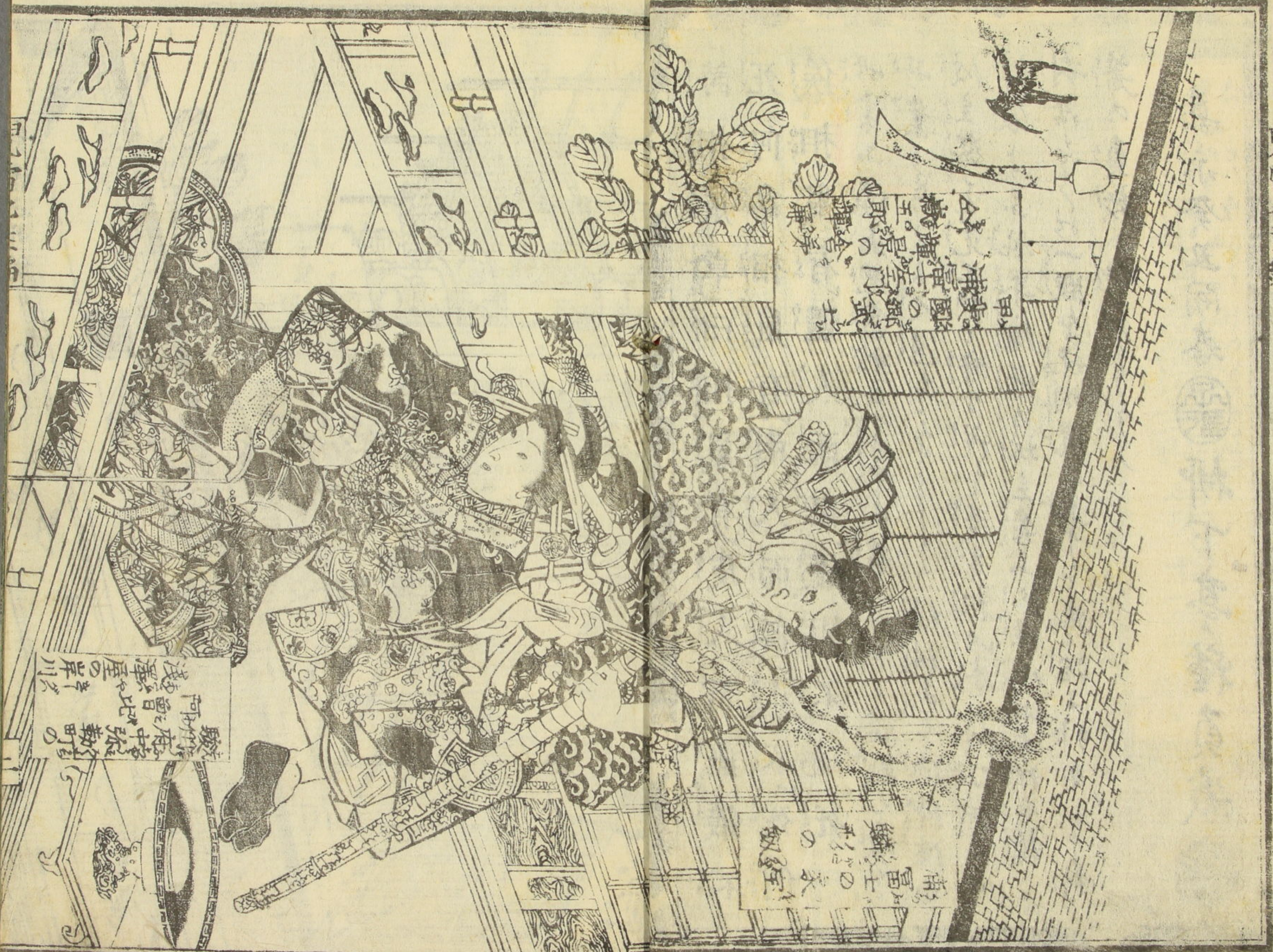
一雄齋國輝画

甘泉 一雄齋



詩相鼠章曰相鼠有皮人而無儀不  
 死何為相鼠有齒人而無止不死何  
 俟相鼠有體人而無禮胡不遄死  
 世書小像出兒雷也書中鼠此盜賊也  
 所業小人道也綠林色與仲津白  
 彼立替克義守禮重也叔此卷杖行仲  
 津浪不風早津綠の林並ふと保崎小古和の精  
 對活を一段を保相鼠の象を本河に引用す新  
 著の負教小加るる

嘉永癸丑開春 柳下亭種員識

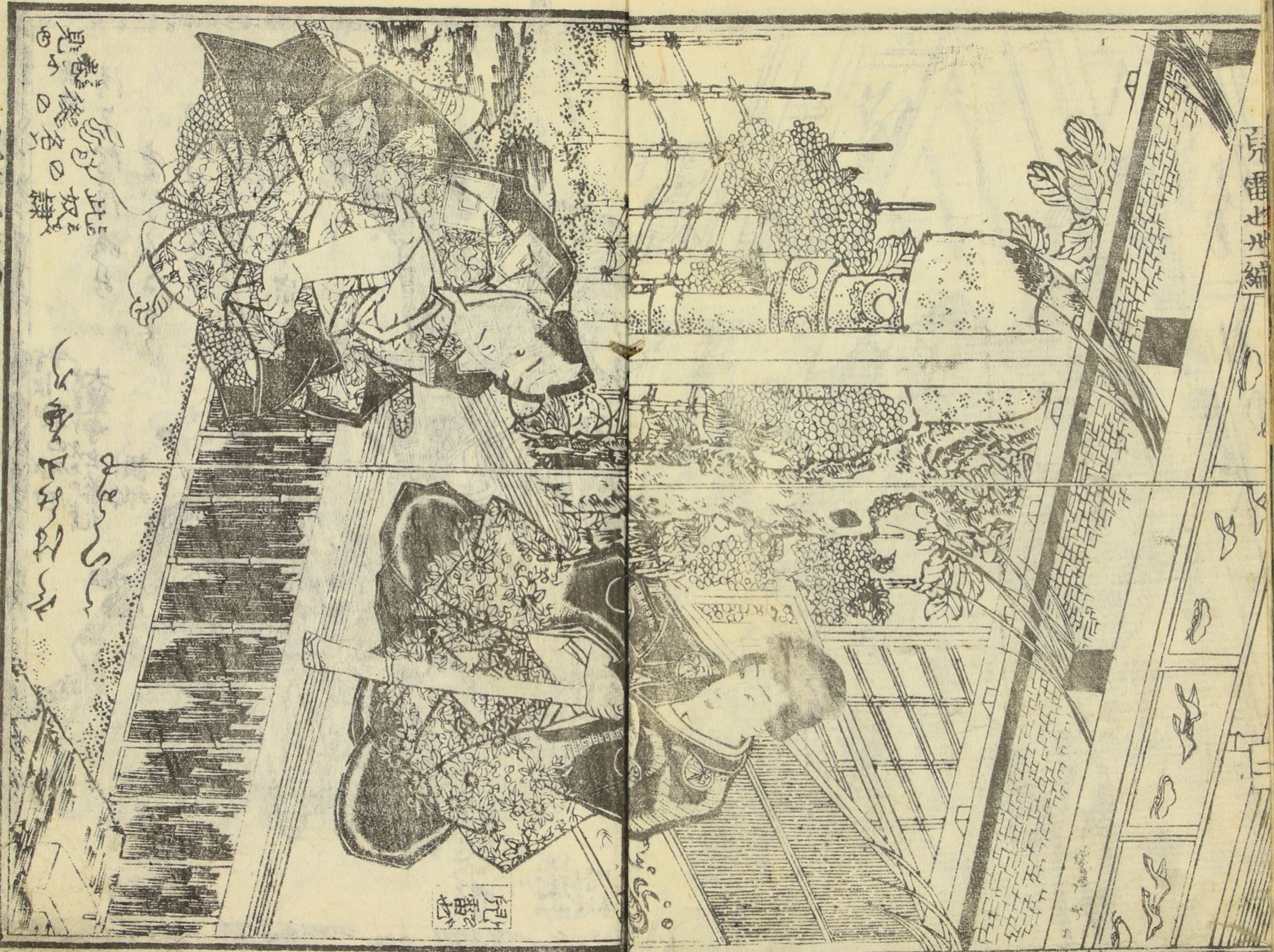


甲  
浦邊國の郷武士  
浦邊王の景舎  
殿五郎輝舎  
廉

駿河府中張野の  
阿曾地  
浅草屋の岸川

南  
富士の家  
鱗形の劍經

兒雷也世編



兒雷也

此處  
奴之  
名曰  
卷後  
見也

此處  
奴之  
名曰  
卷後  
見也

見也

玉葉集

清見河原路好

重ハハレヨク

ゆりりのり

と保の浦好

平宗宣

今川家の元老  
大道寺玄蕃九

頼邦

駿河國主  
今川  
伊勢助  
時秋

紀行

三種の松の木の

梢のまはる

きりぎりすの

うぐいすの

冷泉為村御

今川家の智臣

龍藏人

貞勝

駿州  
三原の嶽  
古松の精









Handwritten text in a cursive script, likely a diary or journal entry, located at the top of the page.



Handwritten text in a cursive script, likely a diary or journal entry, located at the bottom of the page.





この上りのふとくは  
あつたゆかりの  
まじりの...

この上りのふとくは  
あつたゆかりの  
まじりの...

この上りのふとくは  
あつたゆかりの  
まじりの...



この上りのふとくは  
あつたゆかりの  
まじりの...

この上りのふとくは  
あつたゆかりの  
まじりの...

この上りのふとくは  
あつたゆかりの  
まじりの...

嘉永六癸丑春新版

種員作國輝画



女郎花五色石臺

柳下亭種員作  
一雄齋國輝画

黄金水大盃盃

為永春水作  
一壽存國貞画

新見雷也豪傑双六

一雄齋國輝画

其世如月双六

一雄齋國輝画

假名一休草紙

柳下亭種員作  
一雄齋國輝画

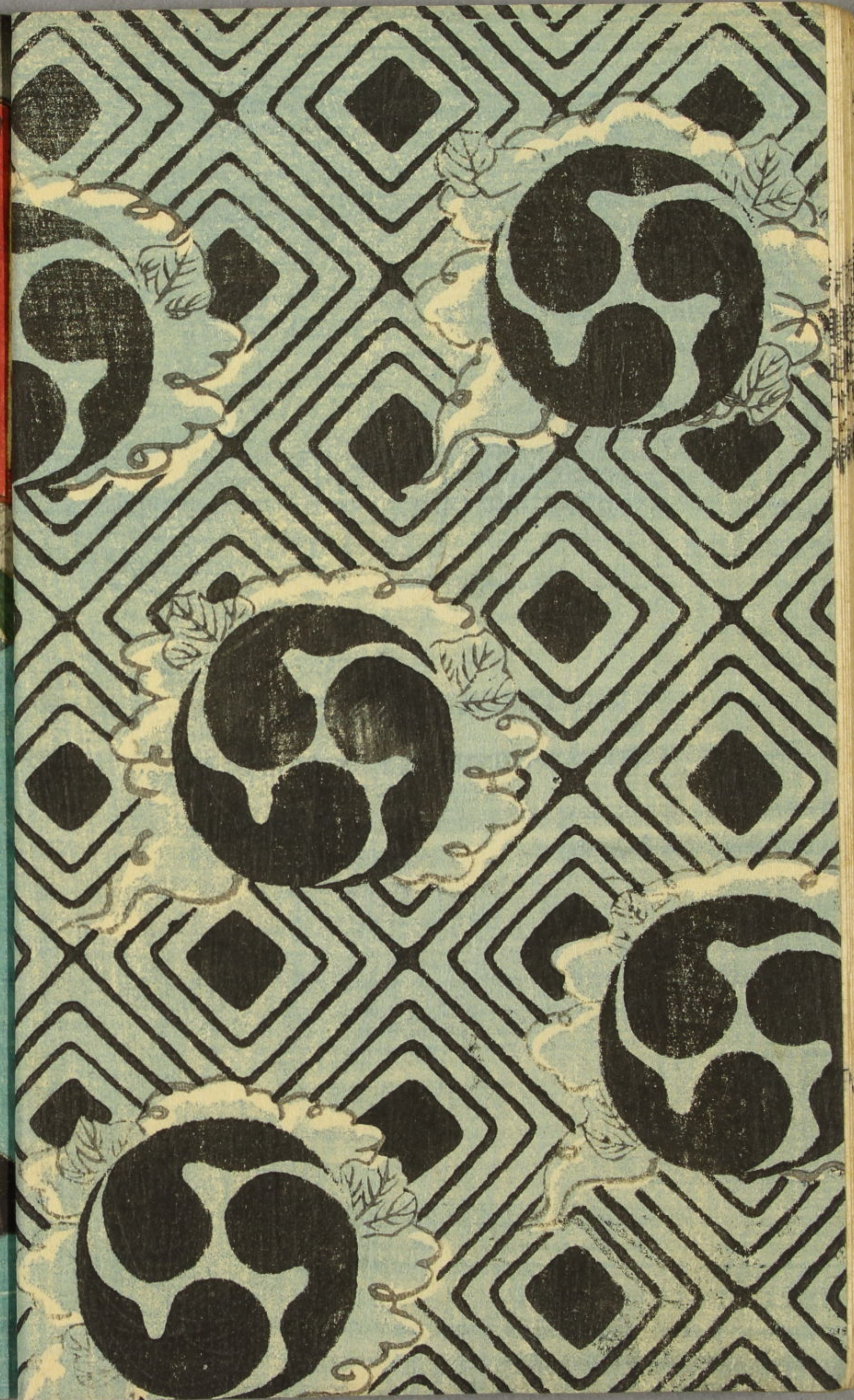
芝神明前  
甘泉堂板

柳下亭種員作

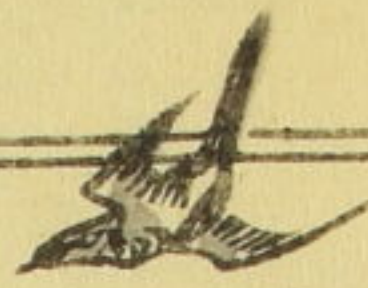
一雄齋國輝畫



下

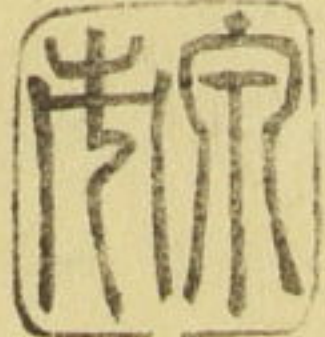


兒雷之家集標  
丹廿一編下冊



柳下多種名花  
一燈高國輝画

一燈高國輝画



鳥の鳴き声は春の訪れを告げる  
花の匂いは大地を染める  
柳の緑は春の息吹を告げる  
一燈高國輝画  
鳥の鳴き声は春の訪れを告げる  
花の匂いは大地を染める  
柳の緑は春の息吹を告げる  
一燈高國輝画



鳥の鳴き声は春の訪れを告げる  
花の匂いは大地を染める  
柳の緑は春の息吹を告げる  
一燈高國輝画

鳥の鳴き声は春の訪れを告げる





今川伊豫助  
時秋府中の  
歸路圖

二百五十一編



今川伊豫助の  
時秋府中の  
歸路圖  
今川伊豫助の  
時秋府中の  
歸路圖

女郎花五色石基  
右の第四編並曲亭翁著述五編の  
柳下亭種員うきつぎ子羊早春  
出版仕つき作者所労あし聊  
愛引子八月上旬よりひきつぎ至  
洋きく賣のやうおらうらむ  
海のとららんのちどなが上ハ

板元 甘泉堂

今川伊豫助の  
時秋府中の  
歸路圖

今川伊豫助の  
時秋府中の  
歸路圖

今川伊豫助の  
時秋府中の  
歸路圖



二百五十二編

月夜に  
うらやまの  
うらやまの  
うらやまの

月夜



月夜に  
うらやまの  
うらやまの  
うらやまの

月夜に  
うらやまの  
うらやまの  
うらやまの



月夜に  
うらやまの  
うらやまの  
うらやまの

月夜に  
うらやまの  
うらやまの  
うらやまの





上戸の女  
 大層な  
 江戸の女  
 大層な

三浦の女  
 大層な  
 江戸の女  
 大層な

江戸の女  
 大層な  
 江戸の女  
 大層な



江戸の女  
 大層な  
 江戸の女  
 大層な

江戸の女  
 大層な  
 江戸の女  
 大層な

江戸の女  
 大層な  
 江戸の女  
 大層な

江戸の女  
 大層な  
 江戸の女  
 大層な



ついでに山姥の  
山姥の山姥  
山姥の山姥  
山姥の山姥

山姥の山姥  
山姥の山姥  
山姥の山姥  
山姥の山姥

山姥の山姥  
山姥の山姥  
山姥の山姥  
山姥の山姥



山姥の山姥  
山姥の山姥  
山姥の山姥  
山姥の山姥

山姥の山姥  
山姥の山姥  
山姥の山姥  
山姥の山姥

山姥の山姥  
山姥の山姥  
山姥の山姥  
山姥の山姥

山姥の山姥  
山姥の山姥  
山姥の山姥  
山姥の山姥

山姥の山姥  
山姥の山姥  
山姥の山姥  
山姥の山姥

山姥の山姥  
山姥の山姥  
山姥の山姥  
山姥の山姥



山姥の山姥  
山姥の山姥  
山姥の山姥  
山姥の山姥



山姥の山姥  
山姥の山姥  
山姥の山姥  
山姥の山姥

山姥の山姥  
山姥の山姥  
山姥の山姥  
山姥の山姥



山姥の山姥  
山姥の山姥  
山姥の山姥  
山姥の山姥

山姥の山姥  
山姥の山姥  
山姥の山姥  
山姥の山姥

ついでにうつくしきあひだの夜よそ日お  
ひるのこの名どららひつちやまを  
さきさきとさきさきのあひだを  
つひひらちとあひひらちを  
あつてうつくしきあひだを  
そのあひだをさきさき  
あひだとあひだ  
あひだを  
あひだを  
あひだを



上  
あつてうつくしきあひだを  
そのあひだをさきさき  
あひだとあひだ  
あひだを  
あひだを  
あひだを

中  
あつてうつくしきあひだを  
そのあひだをさきさき  
あひだとあひだ  
あひだを  
あひだを  
あひだを

岸川  
児雷也

あつてうつくしきあひだを  
そのあひだをさきさき  
あひだとあひだ  
あひだを  
あひだを  
あひだを

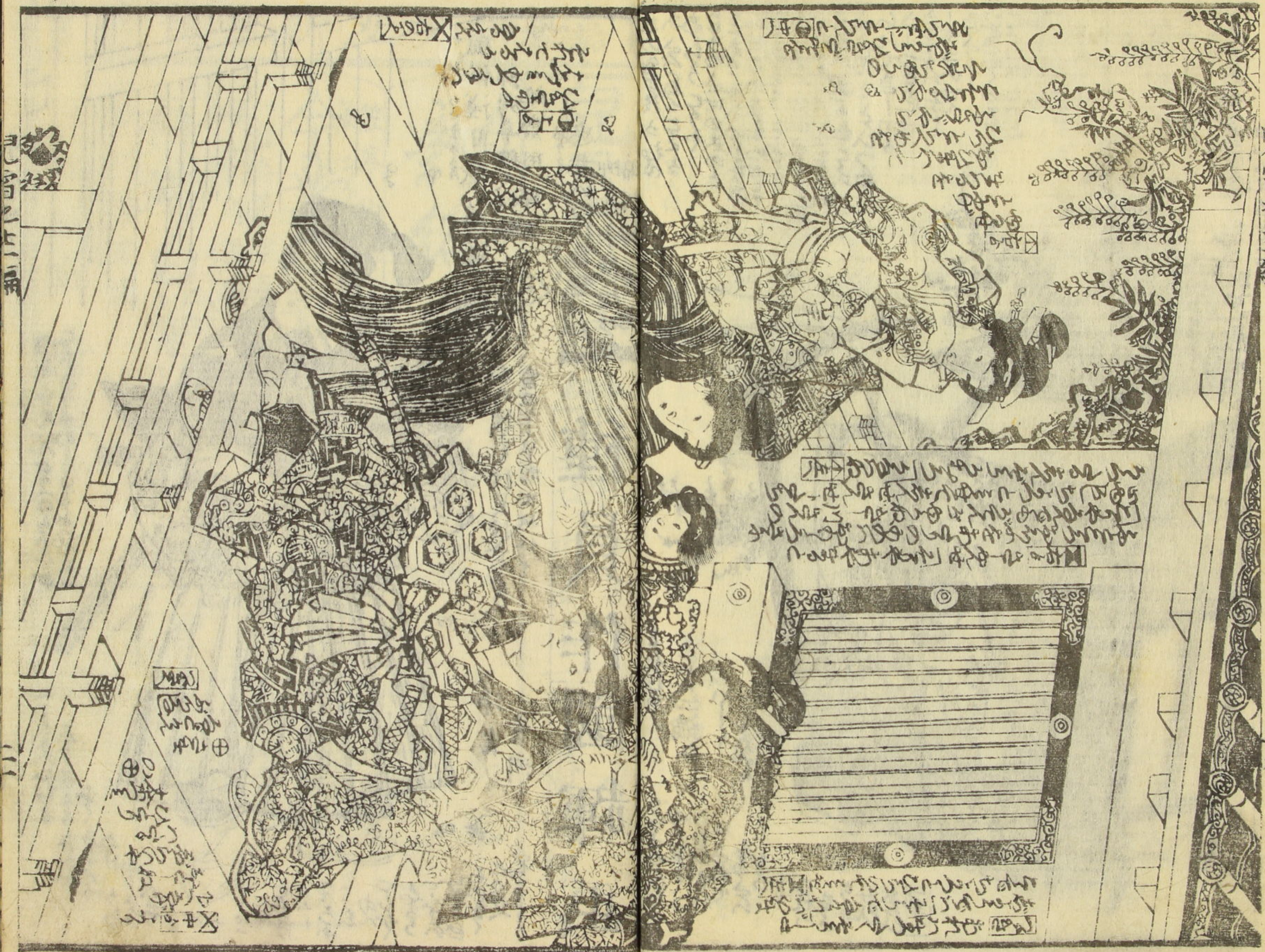
あつてうつくしきあひだを  
そのあひだをさきさき  
あひだとあひだ  
あひだを  
あひだを  
あひだを



岸川

岸川

あつてうつくしきあひだを  
そのあひだをさきさき  
あひだとあひだ  
あひだを  
あひだを  
あひだを



先雷社

Handwritten text in the upper right corner of the illustration, including the characters '先雷社'.

Handwritten text in the middle right section of the illustration, positioned above the sliding door.

Handwritten text in the lower right corner of the illustration, below the sliding door.

Handwritten text in the upper left corner of the illustration, near the top railing.

Handwritten text in the lower left corner of the illustration, near the bottom railing.

Handwritten text in the left margin of the page.

Handwritten text in the left margin of the page, below the first block.



兒雷也豪傑譚

風俗淺間嶽 初編二編  
 柳燭草種久抄錄  
 一雄齋國輝画

右兩種とも種員校合のまじり  
 當丑年早春出版仕。

浄書  
 青洲

此の巻は...  
 一雄齋國輝画  
 柳下亭種員作



種員作國輝画

兒雷也豪傑譚

廿一編 柳下亭種員作  
 廿五編迄 一雄齋國輝画

新編金瓶梅

初編 十編迄 大尾  
 曲亭馬琴作  
 一陽齋豐國画

今業平昔見面影

一猛齋芳席画  
 六編 七編  
 小女郎蜘蛛怨草環  
 初編 大尾

祥端白菊物語

歌川芳虎画  
 五編 六編  
 曲亭馬琴作  
 一陽齋國芳画

芝神明前 甘泉堂 和泉屋市兵衛版



おきりょうのふりかへり

おきりょうのふりかへり

上



嘉永癸丑

柳下亭種員作

# 兒雷也豪傑譚第廿二編上冊

正月開版

一雄齋國輝画

甘泉堂梓



清朝康熙二十六年の春百化坊の雜戲は演義三國志を翻案して  
 千里柳塘偃月刀を作り水滸傳を翻案して千字文西湖柳を  
 秋戯場の表題の聊不更とも濺ぬ毛錐の河竹が節勝を  
 案様は兒雷也の題号空々として高評都鄙は鳴夷看官群集  
 とありしより策冊の賣出高倍せりと抑是は甘泉堂が揺錢  
 樹と刊行東西二段實入のりとして編述者の予え悦喜あり  
 後ばあやう山精前年より増く編數多く出版こと  
 舒詞は交文と各位は告して中るあり

嘉永六年正月

柳下亭種員

嘉永六年正月



賊長大蛇丸

傾城 岸川



兒雷也



岸川 清政  
父親  
我良八



勇婦  
網手

魚夫三保七  
尾形家臣  
西上  
太郎吾

尾形家臣

尾形家臣



貞の娘  
影のまへ

付并  
峯利

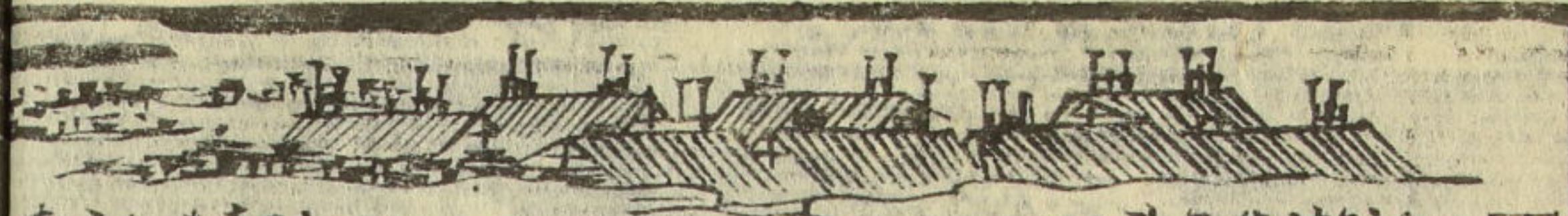
杜戸濱之助  
清心法師



俳  
形見草  
寛文十年刊行  
雛屋立圃追善

高砂  
勇見之助  
義任

鳥雷也  
廿二

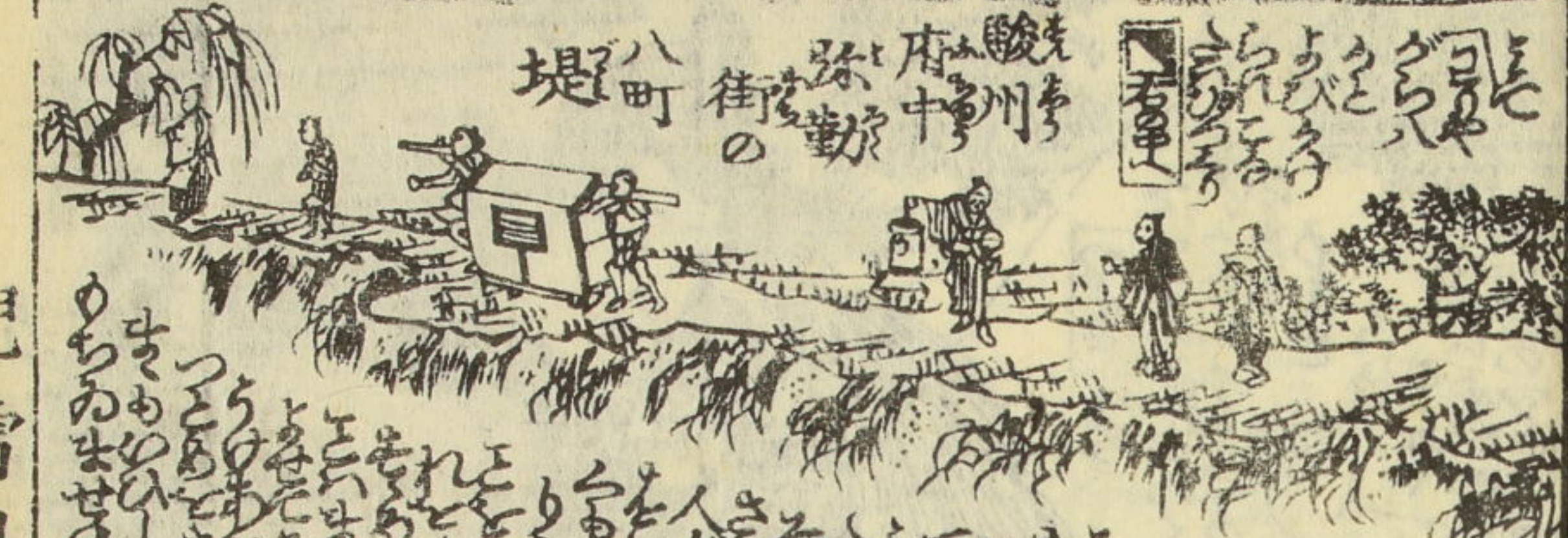


上ノ  
下ノ  
中ノ  
左ノ  
右ノ

上ノ  
下ノ  
中ノ  
左ノ  
右ノ



上ノ  
下ノ  
中ノ  
左ノ  
右ノ



上ノ  
下ノ  
中ノ  
左ノ  
右ノ

上ノ  
下ノ  
中ノ  
左ノ  
右ノ



上ノ  
下ノ  
中ノ  
左ノ  
右ノ

上ノ  
下ノ  
中ノ  
左ノ  
右ノ

上ノ  
下ノ  
中ノ  
左ノ  
右ノ

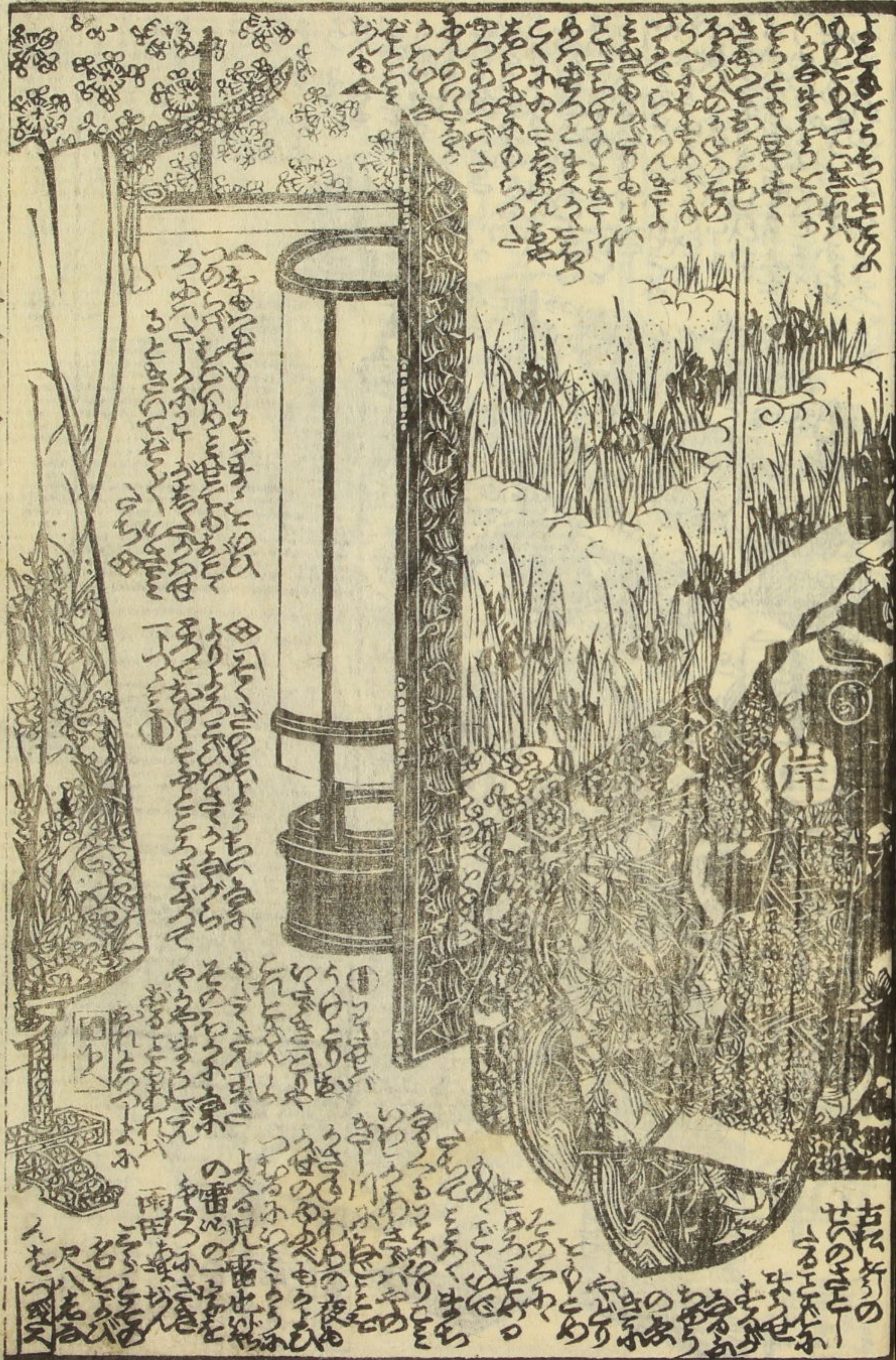












Handwritten Japanese text in kuzushiji script, located at the top of the left page, above the illustration.

Handwritten Japanese text in kuzushiji script, located on the left side of the left page, adjacent to the illustration.

Handwritten Japanese text in kuzushiji script, located at the bottom of the left page, below the illustration.



Handwritten Japanese text in kuzushiji script, located at the top of the right page, above the illustration.

Handwritten Japanese text in kuzushiji script, located on the right side of the right page, adjacent to the illustration.

Handwritten Japanese text in kuzushiji script, located at the bottom of the right page, below the illustration.

嘉永七甲寅新影略目錄

小倉百人一首

極ぶるもよし  
小倉百人一首

新編金瓶梅

十編梅  
馬琴作  
豊國画

小女郎蛛怨麻環

三編讀切  
馬琴作  
國芳画

兒雷也豪傑譚

廿四編 柳下亭種員作  
廿五編 一雄齋國輝画  
廿六編

一雄齋國輝画  
兒雷也豪傑譚

芝神明前  
甘泉堂版



種員作國輝画

見事七十九





見雷也

豪傑傳

第廿二編下冊

種久化

國輝書

東京  
輝書



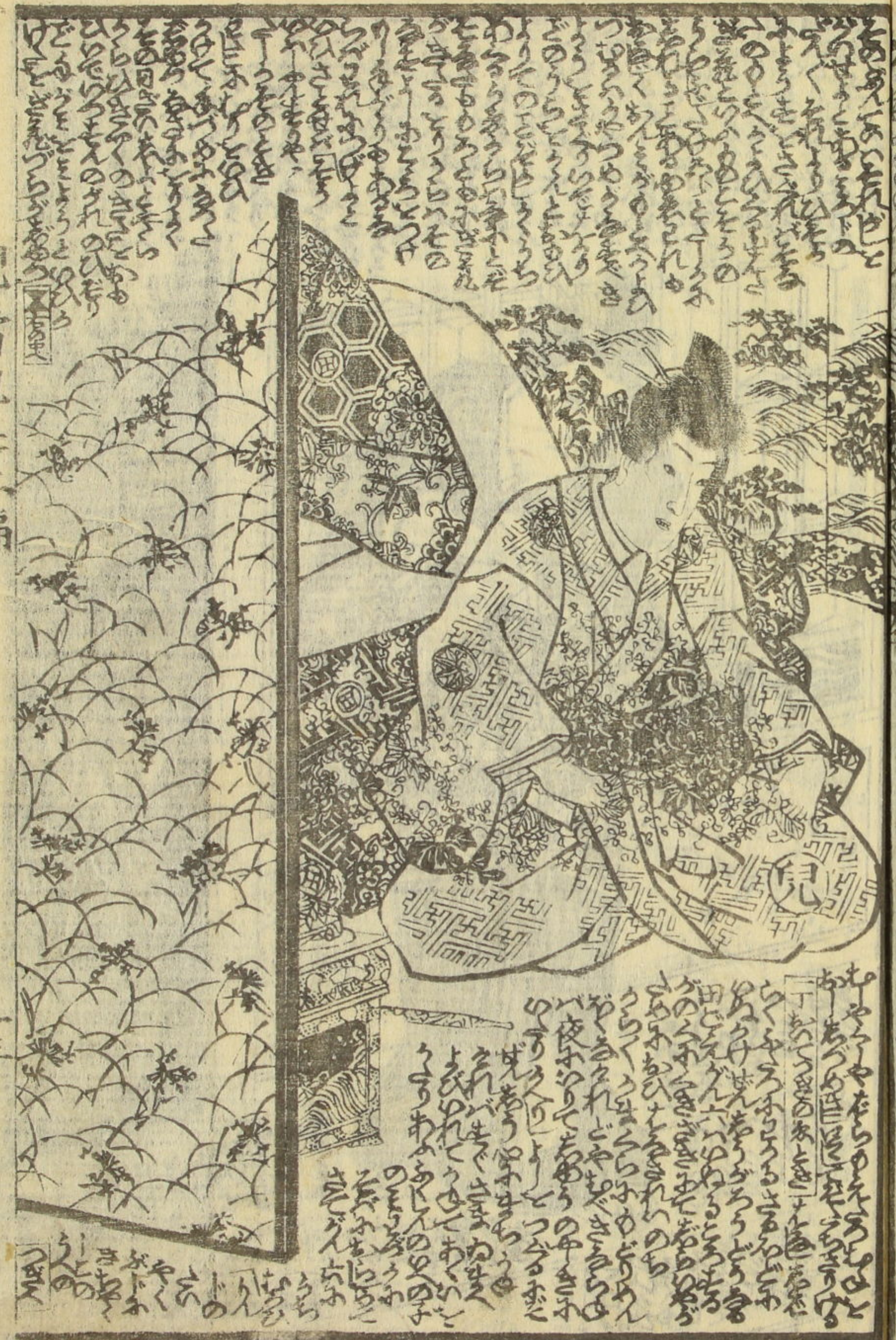




見聞廿二  
 此の如く  
 見聞廿二  
 此の如く  
 見聞廿二  
 此の如く

見聞廿二  
 此の如く  
 見聞廿二  
 此の如く  
 見聞廿二  
 此の如く

見聞廿二  
 此の如く  
 見聞廿二  
 此の如く  
 見聞廿二  
 此の如く



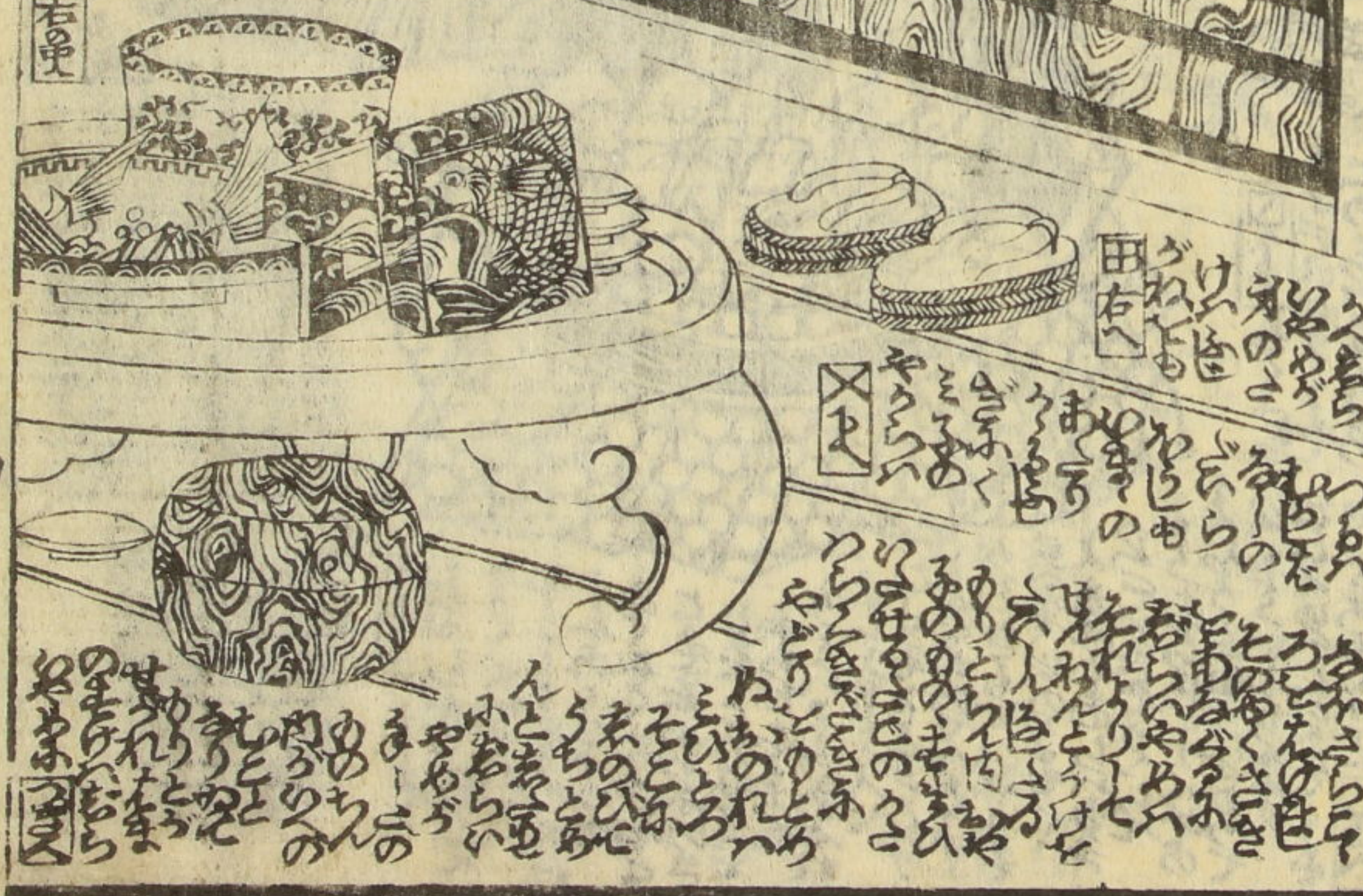
見聞廿二  
 此の如く  
 見聞廿二  
 此の如く  
 見聞廿二  
 此の如く

見聞廿二  
 此の如く  
 見聞廿二  
 此の如く  
 見聞廿二  
 此の如く

見聞廿二  
 此の如く  
 見聞廿二  
 此の如く  
 見聞廿二  
 此の如く

Handwritten text in vertical columns at the top of the left page, likely serving as a title or introductory text for the scene below.

Handwritten text in vertical columns on the left side of the page, surrounding the central illustration.



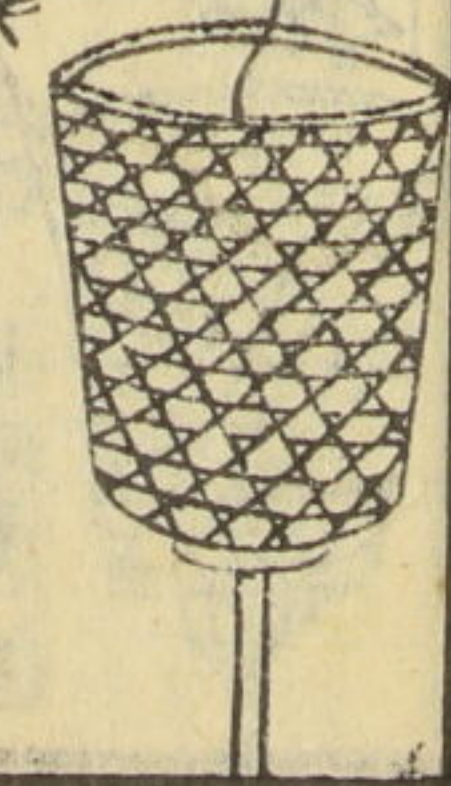
Handwritten text in vertical columns at the top of the right page, above the main illustration.





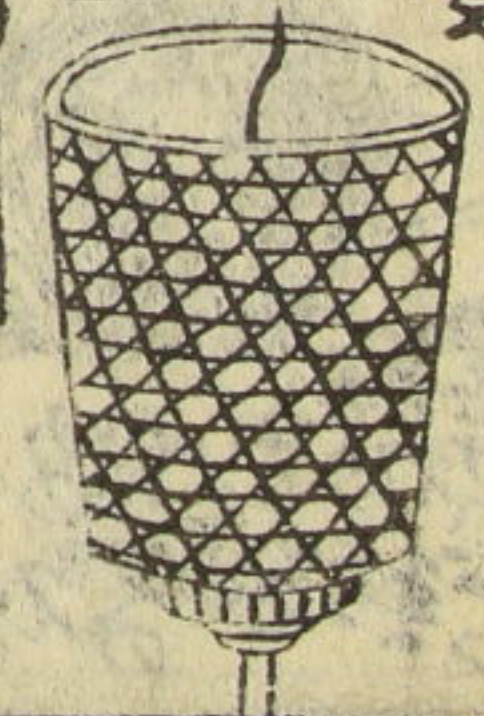
田上  
 田上  
 田上

田上  
 田上  
 田上



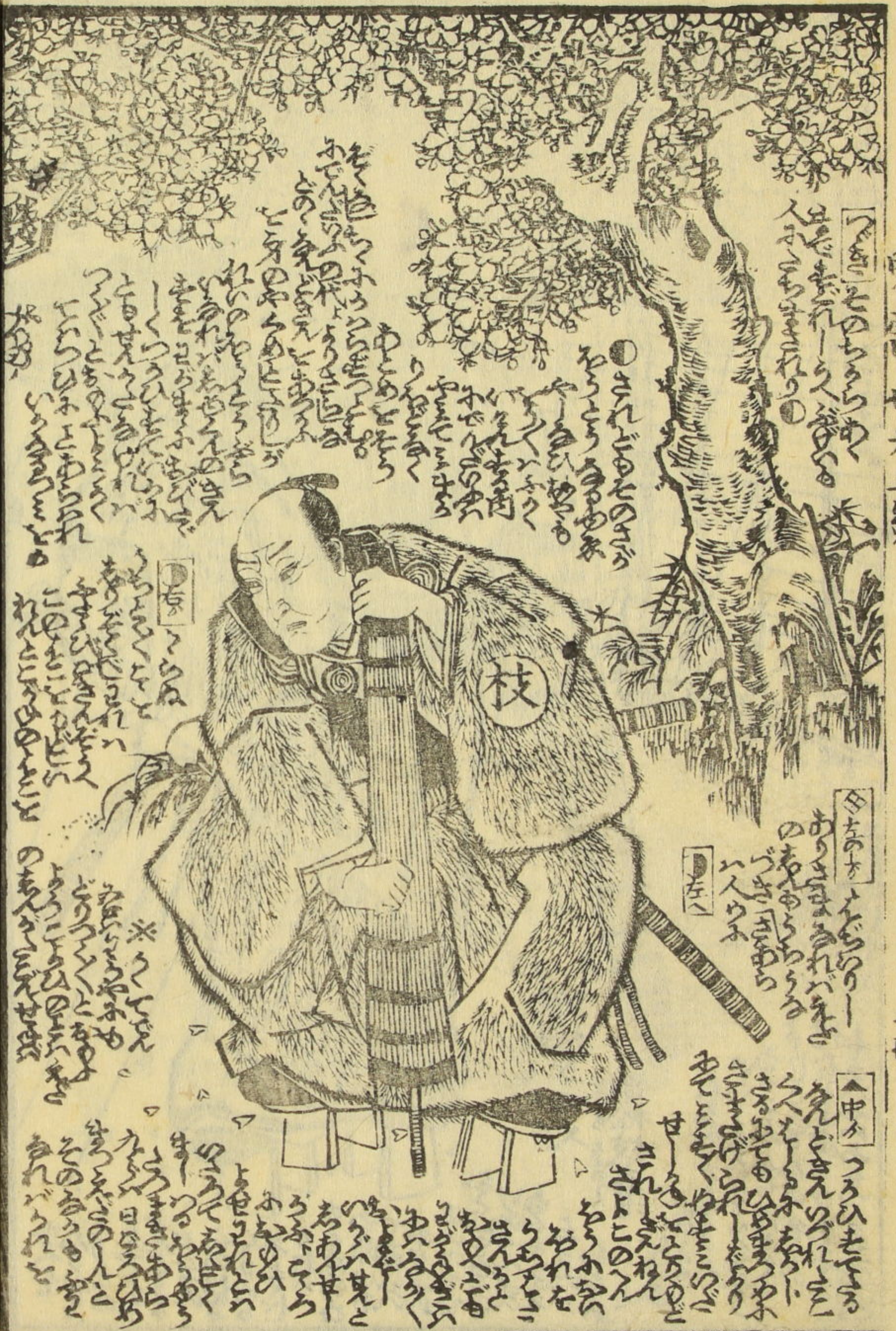
田上  
 田上  
 田上

田上  
 田上  
 田上









枝の木の葉は  
 秋の風にあはれ  
 さらさらと  
 舞い落ちる

枝の影は  
 石の隙間に  
 長く伸び  
 静けさを  
 告げる

枝の葉は  
 秋の風にあはれ  
 さらさらと  
 舞い落ちる  
 枝の影は  
 石の隙間に  
 長く伸び  
 静けさを  
 告げる



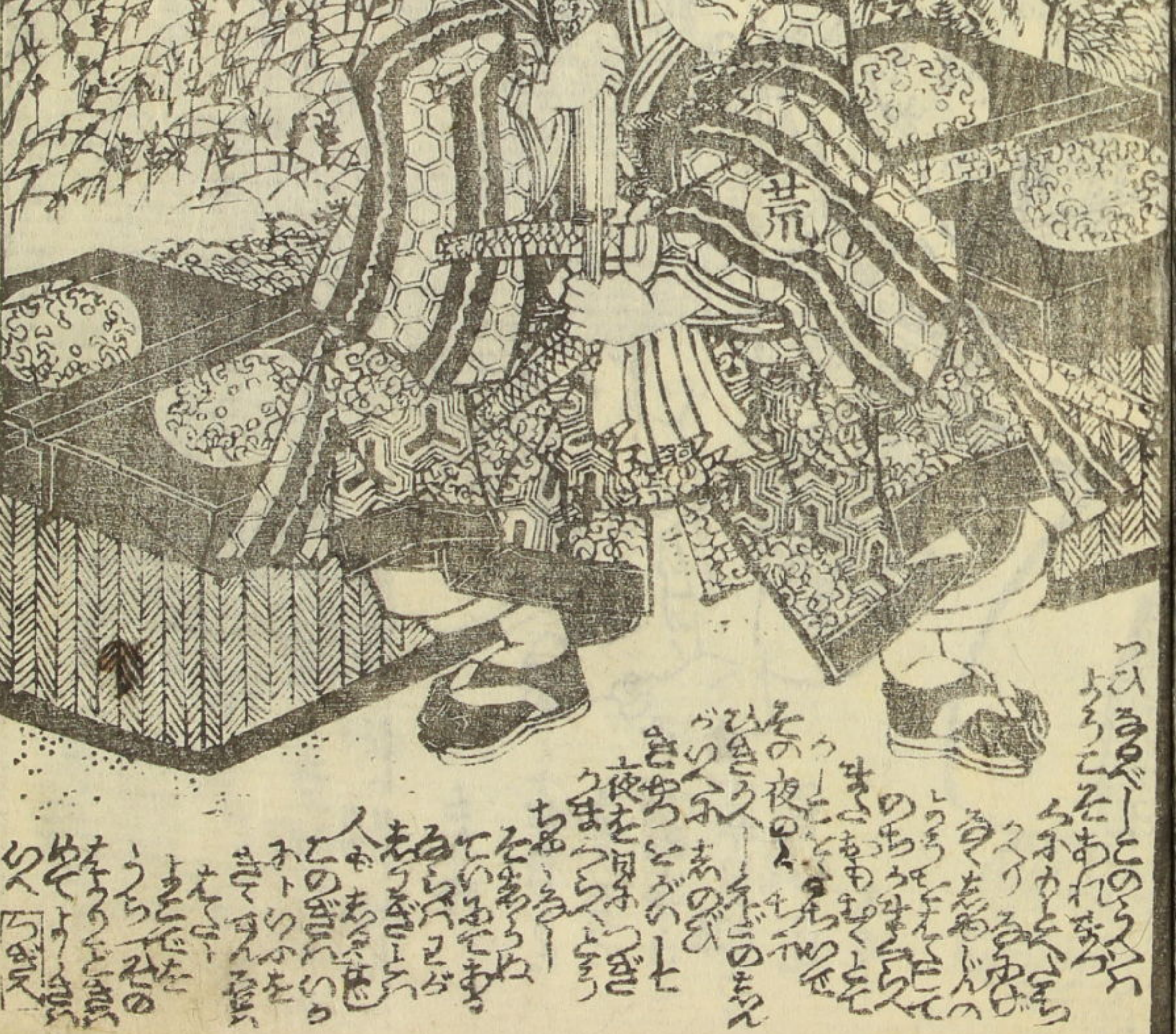
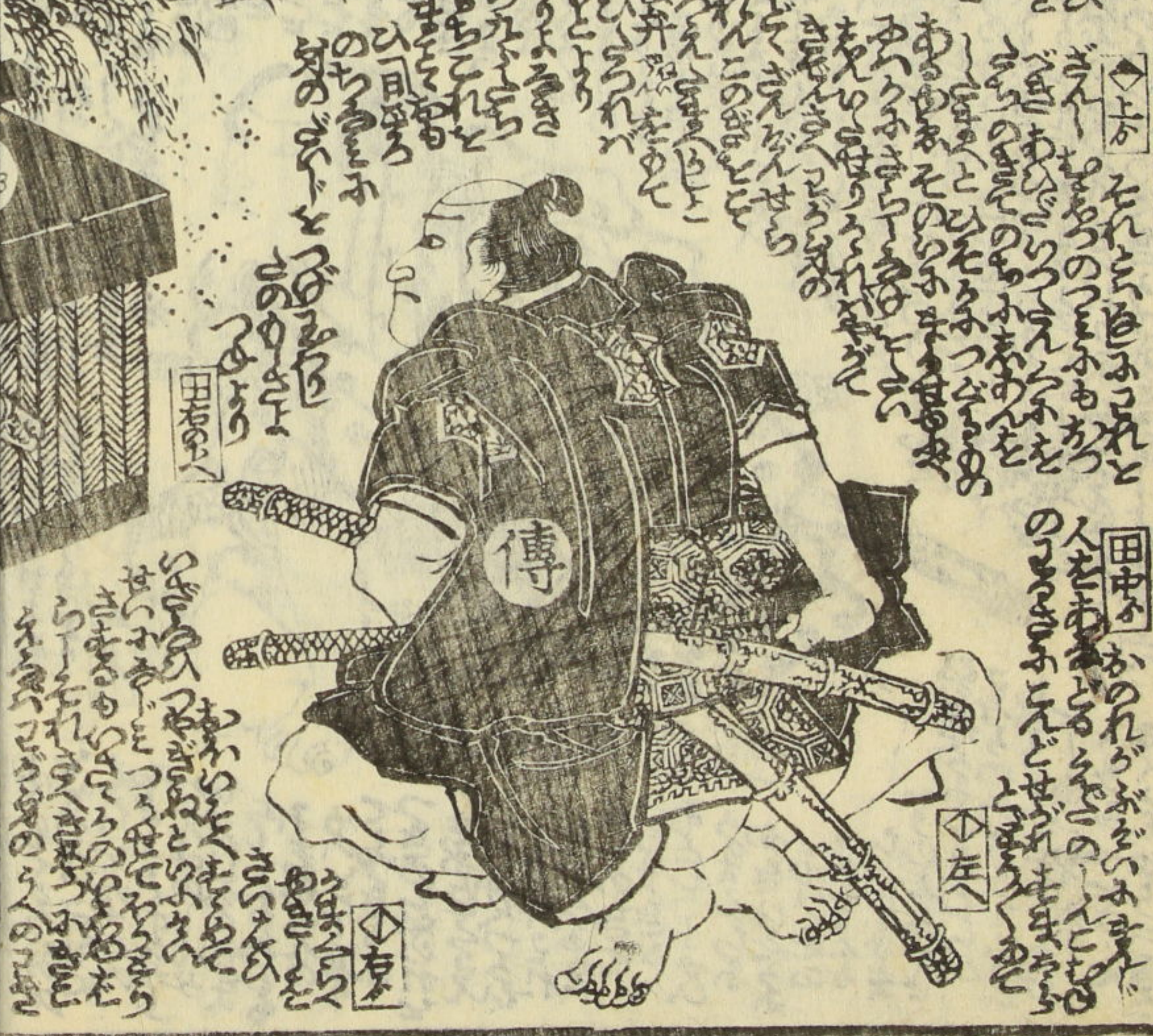
傳の音は  
 空を渡る  
 鳥の如く  
 軽やかに

傳の影は  
 木の葉に  
 揺らめく  
 静けさを  
 告げる

傳の音は  
 空を渡る  
 鳥の如く  
 軽やかに  
 傳の影は  
 木の葉に  
 揺らめく  
 静けさを  
 告げる

右の...  
 左の...  
 中の...  
 下の...  
 上の...

右の...  
 左の...  
 中の...  
 下の...  
 上の...



田中

田中





種員作國輝画



小栗十騎  
金沢八景

照天松操月鹿毛

似編 春風亭柳枝作  
二編 一雄齋國輝畫

風俗海間嶽

初編之海

種久作  
後員景春  
國貞画

一休草紙

五編六編七編 出板

黄金水大盡盃

為永春水作  
一壽齋國貞画

初編  
二編  
三編

柳下亭種員作  
一雄齋國輝画

地本草紙問屋 芝神明前 甘泉堂 和泉屋市兵衛板



兒

雷也

真家

傑禪

廿六編

拈六之字 鐘吳化  
一雄高國 輝魚



高魚

